京都教区広報委員会 (編集長 村上透磨) 京都教区本部事務局 京都市中京区 河原町通三条上る TEL 075 - 211 - 3025 FAX 075 - 211 - 3041 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page http://www.kyoto.catholic.jp

共

有

たいと望んでいます。

そ

れら

0 人

Þ

起こ

つ

ているの

か、

1)

も注意深く見守

7 が

いくことが大切です。

会は

そ

の責任をすべての信者と善意

0 で

ヘ々と

す。

0 周

り

で、

ま

世

何

n 経

ば

なりません。

これ

は重大な責任

す。 さな

教

達

4345

2頁

「気兼ねなく滞在できる家」小教区(鈴鹿教会)

を、

2019年 大阪教会管区司牧者研修会「青年にきく」 3頁~4頁

一て入

国

帰

国まで―で具体的

に表わり

け

点訳版「京都教区時報」〈無料〉 ご希望の方は点訳ネット「レジ ナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さ んまでお申込みください。

住移

動

0

X コ

ッ は、

セ

1 昨

ジ 年

で、 0

次のように

ラン

シ

ス

世

昇

難民移

述

ら

れ 者 フ

7 0

1) 日

ま

ず

TEL • FAX 079 - 431-8601

住者に 無 関 心 で は (1 け な

(1

2019年

司教年頭書簡を読むの

照)。 され なる愛にゆ らざるをえない 機会です。 におら わ たりし イ 移住 主 たし エ れ は、 ス . の るからです た だねておられ ているあらゆる時代 1 あらゆる段階 よりよい未来を求め 5 丰 エ 人々を一人ひとり、 ij ス 0 は迎え入れら ストと出会うため 家 0) ~ 扉 います。 を タイ た 出 た 25 国 . の れ ځ から たり、 外国 7 教会の 0 祖 35 外 0 移 心 玉 玉 動 遣 を 43 0 0 去 **⊞** 内 な 参 絶 0 は 1)

題 は を見ていると、 れ て、 自ら 現代における移住現象が抱える多く 1) ます。 1 寛容さと迅速さと知恵と洞察力をも 0 スで流され 能力に応じて取り 別世界の出来事 る世 肾各地 組 Ó むよう求めら 0) ように思 難 民 0 0 映 課

バンギの難民キャンプ

てし の まい 身近 私達 ます。 なところに そ れ では ŧ N 移 け 住 な 者 1) がおら 界中 0 です。 れ ま 私

2019

正 郎

社会と共に歩む教会 気兼ねなく滞在できる

http://www.kyoto.catholic.jp

ほ 7 とか私が てくれました。 ことです。 0 ど受付を済ませた人たちに 5 受付を済ませることができまし 1 月 ながら、 年 プ 19 ノには、 言っていることを理 \dot{o} 日 まし ベト 集い 開 - ナム なか 次の 催 初に来た人たち の受付をし 鈴鹿教会 されました教 私は困り果てて、 なか言葉が ベ の **|** 人たちが受付に ・ナムの てい て、 山 解 助 通 してくれ 本 とは、 けを求 へたち 手伝っ じ X 主 なく た。 先 何 来 の Ó

のですごく た人たち 付をしてく てもら り 最初に てく そ いまし そ か れ つ が IJ

> 心として、 す きる必要が が ケー の言葉に ます。 可能 ショ L れ ・ショ か となります。 他の方々とコミ ン あると思い よるコミュニ 意思の疎通 を図る上で を図ることができる人 だ単 玉 なる ます。 を 0 方 出 図る ケ 良 々 1 ユ 15 ニケ 事 そ に 例 0 シ には、 3 0 0) 0 コ 3 1 コ ン ょ でを中 3 う が つ シ ユ

うい きるように お 0) るようになっ ハたち 互 時に ある程度 う 1 理由 があ . の 緒に作業をすることに 価 な から 0 コ 値 ります。 ミュニケ ような行動を取るの た上で、 観 な 0 の 差を認識 だし 今度は 1 という シ 3 何 ン て、 垂 ょ か が は、 0 解 つ 义 あ られ て が 行 で 0)

ことができるようにな 方々とも仲良 \sim な 3 ラ } 鈴鹿教会では、 ま では ています。 グロスは、 の方々との 今年 なく、 から < Z な 鈴鹿 ~ り らみでは のイ ルー セニョ は 教会のイ お互 り ベントを通 0 フ まし なく、 1 方々のみの 1 IJ 1) ル た。 を理 ピン デ・ 他 ベ ン 0 解 0 L 口 方 する 玉 1 て イ ス 0

行進 た上 近 距 歩 申 年 道 < に 離 6 で、 ò です を、 を ま 教 出 般 が短

国際ミ ニテ 施 7 3 L た 0 1 サ 後 り サ 1 コ ? に を実 が す ユ

理解 に花 す。 親睦 があることによ に が咲 を深め その時 なっ することが () 7 7 パ 1 W ・ます。 できま 各 お互 つ テ 玉 1 0 1 ふだん 料理を らす。 話題 を実施 の文化をより が 持ち 広 見 i が な た つ り W į て話 料 理 7

えられ れることなく、 方 4 々です 名の役員 、ます。 Ó で、 のうち、 他 のコ 評 議会の決 2名は ジュニ 定事 テ \Box 1 本 項 1 6 DJ 遅 外

実現 できればと思っ か お パできて 々 5 知らせを多 計 画 る時 1) ま 7 が せ (,) 国 るの てい チ ヤ で つですが ・ます。 日本人 発行 ン スで 以外 す ようと 0 な 0 か な か

をささ

げ

るフィ

IJ

Ľ

ン

0 ア

伝統

的 銅

な

行 に マ

子供用のお神輿を作っ

を中心として、

フ

口

レ

デ

1

 \exists

前

ん施しました。

マ

IJ 1

様 ス

0) •

像

お

花

育

系

の大学に入ったのをきっ

か

け

でも心の傷を負

一者を紹っ

介し

ていただきまし

た。

私も教

だからという事で、

すぐに教育部

の担

その時はまだ学生だっ

教会に入っ

たの

は

高

校生 たの

0

頃

でし

で、

理 る ように 所を深め . の 方を中心とし から 努力していきた 写真は て真の 2 0 1 9 ココミ 7 つ ュ 0) お いと思い 互 テ 青年の 11 1 に 1 集い ・ます。 にな 親 0 睦 IJ ħ

20 ٦ 9

松教区) 助 0) を傾けました。 5 は ラファ 教区(名古屋・京都 司牧者研修会が 6 「青年に聞く」とい 月 修道者が集まり、 18 から、 ミリア) 日 (20 日 約150 京都教区からは 行わ で、 第12回 うもの れ 大阪 • 大阪 • 広島 • 高 名の司教、 青年達の まし 梅 た。 田教会 大阪教会管 山 声に耳 管区内 テーマ 司 **(サ**

畑智子さんが発表しました。

0)

ことを思

ات (را

きた同学年

0

友達 出

が

教会で初めてで

り する教会にくる青年の人数は、 教会に私の役割があることに喜びや できました。 8 ダ 様 ´ました。 いを感じます。 て、 々 P な青少 トスタッ の教会 年対象の教会活動 私はこうした活動を通 フとして参加し、 0) しか 達と関わることが 今では、 少なくな そこで初 L やり 所属 IJ

うに な声をきく度、 将来があるからねぇ」 の方々から 教会での活動に ていいね」とか「あなたはまだ 先 日、 わ も他教会のある方々からそ れたので 私 あ 参加 す なたは が と頻繁に L ているとき、 若 毎 回こ 1,1 から 言わ の 夢 たまだ の れ 信 ま が

あ

す

痛く ます。 ま ことを思うと胸 L 0) に た。 人事 れ 時に亡く かかり、 た 知人の友達 なりま そう 一件に 私は 友達は病 巻き込 大学生 で、 ず。 友達 なり ま が 0)

初

私は成人洗礼で信者になりま

せん。 持っ 達は 日本 若者だと保証されているわけ 見てきて経 く人材であると思い 大会に参加したとき、 いけるように、 という意も兼ね 面 比較的経験 もあ ているとは限らず、 でも に 年 今年の お Ė 多くい り 私達 1) 東日 験豊富な方 今後の教会活動 ワ 青年 ます。 も浅 確かにす Ì 期待されてい 一本大震災の津 て、 ル が ド 今後の教会を築 いもの ます。 U カ々から ユ つも 1 また将 時 ス 0 は 明 、ると思 代の変 では デ Ā を 体 社 る ń ĺ 世 来 担 に 代交代 ば、 あ \dot{O} 1) 的 デ パ つ 0 化 あ り あ ナ 7 ま 1) 1) ま ま マ を 7 私 を () 強





(,)

ただだい

7

1,1

ます

他

0)

1) と言 たち わ に 明 日 で が なく 私 、今を 印 象 生 きな 残 り ŧ 3

<

0

か

な

自

ち

0

開

水を浴び、な自然に 様 ま 意 物 往を 0) り 人し 自 識 勅 コ を の住 復し 稼ぐ い冬の 1然環境 する度、 をとり 私は ほとりで生活 0 々の姿。 な 入り な で捨て り返 り 1) ため び、 ŧ Ó む こ 様 まだ若 を 6 寒さに 同じ世 海 いる姿、 、混じった空気を吸 ることが \$ L だと実感 環境によ 用 0 あ が 通 た。 てい 逆に 釣っ 違 げた 思 や川、 て住み家を作 推 0 に ま 自分がみ 奨さ れ 1) で 1) 7 1) る青年 を思い 違 あ ح H 地 耐え ま た魚を糧 たあ で 代 L かす。 またあ 一ラウ であっ 中 てい 球の れ っ り れ つ 森などにごみ あ す て、 て自 ってき る は n が る青年 起こし、 \$ 手 私 他 私 私 たち 反対 村 ダ ま 足で とし り は 7 る都会では生き た は 0 0 0 生き方が 然と共に で 工 す É 複雑 は、 側 冊 をみ の姿などをみ 経 ę コ 今 卜 分 昇規 て食 澄 が回 年 験 舟 達 で ま 口 フ 0 な ح などを無 が 濁 は ん す ラン 7 を を 自分たち ジ 信 0 は 本当に くら 感じ きまた 漕 だ湖 模 砂 Ì ょ 通 0) つ 仰 豊か うに よう た川 L 1,1 お金 ぼこ で を 0 シ 生 厳 で j の 回 ス で

ず、 す 分 け 0 0) が 下 7 0) ま を 1) くら をも 経 方 か さったのを嬉 は 葉でした。 1,1 L 7 少し 験 た 々 た H ち 事実です れ た れ、 . の か る場 が 本 合う L 悲しく ね。 れ 5 0) 達 てきた喜 無意識 てし 言 が 事が \exists が、 私 本 あ ゎ しく思 な まうと、 は W 0) を り な れ で に若 知ら りまし から ŧ たの き S. 世 れ と苦 な ず すご つ 0 ん。 15 7 か は、 1) たと とい た。 方 な ĺ 戻 1) 悩 ように 年 か 々 1) た 私 外 、う先 を結 同 が 時 な 齢 確 ね てまず は 能かに 時 層 玉 か 歓 期 亚 感 入観 に、 논 局 に 0 迎 が じ 等 辟 若 話 Ŋ L 15 あ 経 L だだ 私 ま が 世 う 15 7

Ļ 年 訪 な う 消 に < 0) す 教 修 Ó 道 講話 < は、 た れ L 経験などを 様 西 青年 シス 5 で 女 陣 の支え 7 す。 を 会の 教 か 丰 1) ず 達 ま K ヤ 夕 会内にあ 5 す。 な 年 か ン が シ 直 1 に ĸ 語 青 聖 ス 地 齢 に 方や 接 ょ いり分かり や学 默 夕 私 域 ル 年 郷を を灯 る望 から 1 が 同 神父 て、 菛 方 最 士 た で各 や、 洋 近 ち 講 L L 0 様 運 合 座 社会· 7 7 庵 は はと共に 営 神父様 そ 達 振 部 1) テ P は、 つされ ます。 、黙想 人 1 ځ が り 屋 な 望 に 望 返 0 マ 力 必会など 電 に 食 7 15 洋 ど り IJ を行 た青 関 気を 基 事 1,1 夕 庵 最 を ま 司 ス

られ

るようになっ

てきます。

え、 のです。 辛い で歩 いると、 か心 は、 て望 あら あまり な よう その場に の望洋庵 の違う人 講 か کے 御聖 求道 むべき苦難 لح が 座を受けて洗礼を受けら とを考える時 洋 ゆるきっ れ 感じて >落ち 感じることは 庵 7 私自身、 過者となり そ 一体が顕 b 信者も未信者も いる青年みん から次々と新しい芽 を訪 れま 着き、 集まりま た内容でし か 1,1 れ たこと で仕 り 宗さ の道だと思 け た 所 望洋 シス で が 望洋庵 れ 事 あ す 未信者 を、 ずや人 ている なで ター 庵 りませ でき が 勇気をも つ 関 に と こて、 間 夕 1, で行 年 係 ここで ると、 0) ん。 関 間 0 が 齢 仰 P れ なく、 青 ると 黙想し 受け 神父 広 生 係 祈 出 ま わ つ 層 などで す。 年 7 実 は ζ 0 7 れ 0 を る たち 初 世 何 1) 扉 0) る 進 れ中 7 故 8 を 1) が

備

かに Ŋ 青年 な 7 外 交流 默 て勉 分 0 想 か 達 強し だけ ち 徒 できる場 が、 合える場 た で 各教会や できること り は お はなく ൎ 所 1) そし 、共に祈 かち合っ が 0) 教 経 を X 今後 て 験 をこ 願 青年 P り つ \$ り、 ž 7 典 つ 仰 7 礼 に に 集

IJ

沂

8月のお知らせ

教

区

京都教区カトリック正義と平和協議会

/ Tel.075(223)2291 ♠

第12回 戦争と平和写真展

「沖縄 フクシマ チェジュー

時: 3日生 15:00~20:00

DVD上映「大地を受け継ぐ」

会 場:河原町教会 ヴィリオンホール

場:無料

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習: 4日 14:00/24日 18:00 ミサ奉仕後 カトリック会館6階

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー.ケーブル)スカイA 毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「自分を深く知るために」 出演は Sr.小野 恭世(イエズス孝女会)

8月のテーマ「夏の思い出」

京都キリシタン研究会

都の南蛮寺跡記念ミサ

日 時:25日旬 14:00 ミサ

14:50 研究テーマ発表と

分かち合い

15:30 ミニ巡礼(希望者)

18:00 懇親会(懇親会参加は 事前申込要/会場は別

途案内)

司 式:ユン・サンホ師(洛東ブロック)

会場:ウィングス京都(京都市男女共 同参画センター)京都市中京区

東洞院通六角下る

問合せ:090(2381)4630 古澤

司祭の任命

9月1日付(2020年4月12日まで)

京都南部 洛北ブロック

担当司祭 一場 修師

(洛東ブロック担当司祭・兼務)

※ 10月号の原稿締切り日は8月21日®です。

中学生会広島平和巡礼

唐崎教会 池田 響太

京都教区では今年も中学生が広島平和 巡礼に行きます。何十年も続くこの巡礼 に関われることを嬉しく思います。



2018年 中学生会広島平和巡礼

今年も去年と同様、済州教区の中学生 も参加してくれます。済州教区と京都教 区の中学生が一緒になって広島で平和に ついて考えていきたいと思います。

この広島巡礼は、中学生が平和につい て考えられる場所です。それは、リー ダーをしている私達も同じです。私達 は、春からこの広島平和巡礼の準備をし ています。中学生だけではなく、リー ダーをしている私達も平和について深く 考えられる良い機会になっています。改 めて「平和」の素晴らしさに気付かされ ています。広島平和巡礼に参加してくれ る、中学生にも戦争や平和について3日 間で多くのことを考え、感じてもらえる ことを望んでいます。

この広島平和巡礼が中学生・リー ダー・神父様とすべての巡礼に関わる人 達に、実りのある有意義なものになりま すように、皆様のお祈りをお願いします。

[青年センターHP] 携帯からでもご覧いただけます。 http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/

青年センターあんてな

大塚司教の

8月のスケジュール



Schedule of Bishop Otsuka

1日承 第13回 京都教区カトリック学校 教職員修養会(河原町教会)

4日间 15:00 第32同 比叡山宗教サミット 「世界宗教者平和の祈りの集い」

5日用-7日承 教区中学生広島平和巡礼

26日 第 27日 次 教区神学生 合宿

29日承 17:30 カトリック学校委員会

30日金 13:00 福者ユスト高山右近 関連会議 (玉造教会)

http://www.kyoto.catholic.jp

31日 10:00 教区 教会学校教師 研修会 (河原町教会)

京都教区本部事務局からのお知らせ

河原町カトリック会館の建て替えにともない、2019年10月31日をもってカト リック会館に入っている司教館、本部事務局、福音盲教企画室、諸委員会(広 報委員会、聖書委員会、信仰教育委員会、衣笠墓地管理委員会、正義と平和協 議会)は、カトリック西陣教会の青年会館内に仮本部事務局を置き、そちらに 移転することとなりました。その引っ越し業務のために10月23日(水)~25日(金) は本部事務局、福音宣教企画室、諸委員会は休業となります。皆様にはご迷惑 をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

尚、移転後も電話、ファックスは今までの通りご使用できます。但し、諸委 員会についての問い合わせは、本部事務局宛にお電話いただきますようにお願 いたします。郵便物も今までどおりの住所で結構です。それでは、いろいろと ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

【休業日】10月23日(水)~25日(金)

【移転先】カトリック西陣教会 青年会館

2019年8月 カトリック京都司教区 本部事務局 北村善朗